



Title	医療従事者応援プロジェクト いよいよ高校生・支援学校の部：はがきで感謝の気持ちを届けよう
Author(s)	巽, 昭夫
Citation	目で見えるWHO. 2021, 77, p. 32-33
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86477
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

医療従事者応援プロジェクト いよいよ高校生・支援学校の部 ～はがきで感謝の気持ちを届けよう～



一般社団法人 生産技術振興協会 執行理事 兼 事務局長
公益社団法人 日本WHO協会 執行理事

巽 昭夫

昭和27年3月生まれ 一級建築士/工学博士

家族や友人との絆など今まで当たり前だと思っていたことの大切さを真摯に受け止め、「災い転じて福となす」故事につながる社会の変化を観察中の日々。

高校生・支援学級の部

医療従事者応援プロジェクトを始めて1年が経過しました。この原稿執筆時には、大阪に3度目の緊急事態宣言が発出されています。医療崩壊の危機に瀕し、インドで起こっている出来事がとても他人事とは思えません。日本は先進7か国の中で、接種が最も遅れた国になったことは大変残念なことです。

さて、医療従事者応援プロジェクト～はがきで感謝の気持ちを届けよう～も、いよいよ高校生・支援学校の部を迎えました。この活動も徐々に知名度が上がり、今回は過去最高の1295点の作

品が集まりました。7名の選考委員で3次選考を行い優秀賞を決定し、HPで公開します。

現地で働く医療従事者は、肉体的疲弊に加え、孤独感・喪失感・無力感にさいなまれています。これらのエッセンシャルワーカーに少しでもエールを送り、励ますことが出来れば当初の目的を達成できていると感じています。優秀賞の作品と佳作を紹介いたします。（詳細は日本WHO協会HPをご参照ください）

総評

コロナ禍での制限された生活を通して、家族や友人との絆、部活動や授業を通じ

て学友や先生とのふれあいなど、今まで普通と感じていたことの価値を、あらためて感じたことでしょう。

コロナ禍の問題を通じて、保健衛生の重要さと、それを支えてくれるエッセンシャルワーカーの存在を感じそれを題材にして、今の自分のことだけでなく、未来のこと、社会のことまで展望して考えている作品に心打たれました。コロナ禍を前向きにたくましく乗り越え、よりよい未来社会を築いてくれる若い世代を、我々は応援したいと思いました。



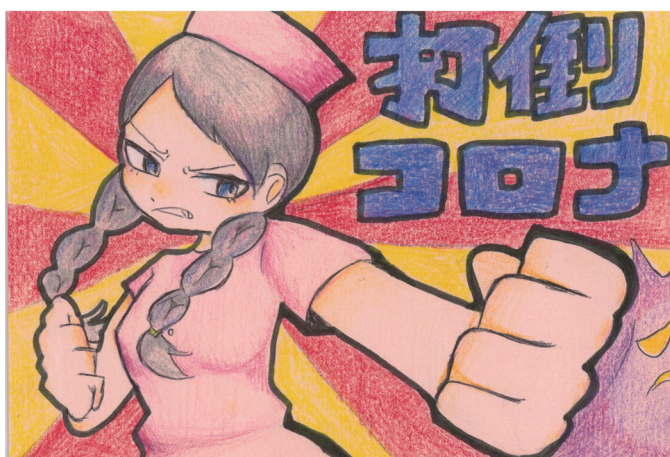
審査委員講評

アマビエさんが優しい目で、医師にエール(懂れかな?)を送り、そのエールにやさしく微笑む医師。目の表情にすべてが現れています。アマビエさん、これからもエールをおねがいします。



審査委員講評

自分たちも感染防止を頑張るから、看護師さんも頑張ってねと、優しいエール。ハート形の地球とともにきれいな色使い。女性らしい優しさが伝わるようです。



審査委員講評

力強い看護師さん。患者さんには優しく接しても、コロナにはこ
うでなくっちゃ、と思われる看護師さんも多いと思います。力強い
こぶしと闘志あふれるまなざし。大変印象的な作品です。



審査委員講評

アートとしてもきれいな色使いです。休校や行
事の中止・縮小など、学校生活に大きな影響が出
ている中、花の中に明るい春の訪れを待つ少女が
描かれています。早く「春」が来るといいですね。



審査委員講評

鬱陶しいコロナ禍の下でも、ユーモアだけは失いたくな
い。大阪のシンボルのたこ焼きに、くしで刺されて痛がる
蛸さん。「皆! 明るくいこう」のメッセージが伝わります。



審査委員講評

看護師さんのおかげで、おばあちゃんがよくなったよ。ありが
う。高齢者のコロナ感染からの回復に、お孫さんが心から感謝して
いる。そんな風景を感じました。二人の笑顔が素敵ですね。